群馬大学医学部附属病院

9群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15/TEL 027-220-7111代/ホームページ https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/

特定機能病院。都道府県がん診療連携拠点病院に再承認されました

病院長 田村 遵一

医療安全に対する高い評価

今年に入って二つのうれしいニュースが飛び込んできました。一つは、当院が高度医療の提供と研修実施能力を備えた「特定機能病院」として4月1日付で、もう一つは質の高いがん医療を提供する「都道府県がん診療連携拠点病院」として7月1日付で再承認されたことです。これにより、高度医療技術の研究開発や人材育成機能が回復し、患者さんに安心して受診いただける体制が再び整いました。2015年に取り消されてからの4年間、本院が取り組んできた事故再発防止に向けた改善や改革に対する評価だと思っております。

当院は医療安全に向けて、診療体制、安全管理体制、 教育・労務管理など、さまざまな取り組みを推進して きました。中でも特に力を入れているのは、①やがて 医療人として羽ばたいていく学生への安全教育、②患 者さんのご意見を取り入れた体制の改善です。この二 つについて詳しくお話します。

「医療の質・安全学講座」開講

医療安全を推進するには、規則を設けて違反をしたら厳しくする方法と、正しい知識を身につけ、意識そのものを変えていくという方法があります。医療安全の体制を維持・継続していくために必要なのは、風土をつくっていくこと、つまり後者なのです。時間がかかりますが、浸透すれば簡単には揺るぎません。教育により医療安全の質そのものを向上させることが重要なのです。そこで、日本で安全に対する適切な医療体制を研究レベルで推進すると同時に、学生のうちから医療安全について学び、意識の高い医療人を育成するため、大学院医学系研究科に「医療の質・安全学講座」を新設しました。日本という枠に留まらず、国際基準で医療安全を考える講座にしたいと思っております。

患者参加型医療の取り組み

医療の質を向上させるには、医療者だけでなく患者 の視点を取り入れることも非常に重要になってきます。 そこで、ご遺族の方にもメンバーとして参加いただき 「患者参加型医療推進委員会」を発足させました。その中で「カルテの開示」を求める声があり、本年4月から本格的に実施を開始しました。院内のパソコンを使い、患



者さんが自分のカルテを閲覧できるようになりました。それに伴い医療スタッフを対象とした、分かりやすいカルテの書き方講習会を開講しました。患者さんにとっては「いつでも見られる安心感」が、医療スタッフには「いつ見られても良い」カルテを書く姿勢が生まれました。また院内のご意見箱に寄せられたご意見に対しては、「ご意見対応ワーキング」のメンバーが中心となり病院全体として改善に取り組んでいます。さらにボランティアさんとの会合を通して患者さんから寄せられたご意見をすくい上げる仕組みも作っています。これらの活動を通して患者参加型医療は確実に進んでいると感じています。

大切なのは継続

「患者参加型医療推進委員会」の中で、誓いの碑(仮称)をつくったらどうかというご意見をいただきました。事故を風化させないためにも、医療安全を常に意識するためにも良い案だということで、本年度中に建立の予定です。医療安全の講座もシステムも委員会も作っただけでは機能しません。大切なのは、継続することです。この碑が医療安全を継続させる一つのきっかけになれば、と期待を寄せています。

もくじ

| §連携拠点病院に再承認… 1 ペーシ |
|--------------------|

| ■特定機能病院・都道府県がん診療連携拠点病院に再承認… | ·] ~- | -シ |
|---------------------------------------------------------|--------|----|
| ■腫瘍センター紹介 | ··2 ペ− | -シ |
| ■群大病院「医療安全週間」 | .3ペ- | -シ |
| ■新任のご挨拶 | _ | |
| ■病院探検!「診療情報管理部」 | _ | - |
| ■患者さんの声 | | |
| ■イベント実施報告 ···································· | • | - |
| ■ 新設募集 ドクターズアシスタント ···································· | | |
| ■ イベント 桂起「舌粒之伯がん 込度佐部日尚合 | | |

高度がん医療を推進します。

腫瘍センター紹介

腫瘍センター長 塚本 憲史

「腫瘍センターはたくさんのがん患者さんを診るのでしょう?」患者さんから良く聞かれる質問です。答えは、半分イエス、半分ノーです。その仕事内容の一部を紹介します。

1) がん薬物療法

がん薬物療法 (=がん化学療法) は、がん治療の重 要な柱の一つです。最近は、がん細胞だけに効く分子 標的薬に加え、ノーベル賞で有名になった免疫チェッ クポイント阻害薬の登場により、その重要度が増して います。現在、がん薬物療法は外来で主に行われてい ます。当院では外来化学療法センターに34ベッドを用 意し、各診療科のがん薬物療法患者さんを受け入れて います。腫瘍センターはその管理・運営、および治療 に伴う副作用対策などを3名の専門医および多くの薬 剤師、看護師ら多職種からなるチームで行っています。 また、最近話題の免疫チェックポイント阻害薬は、こ れまでにない効果が期待される反面、副作用は全身多 岐にわたり、時として命にかかわる重篤な場合もあり ます。当院では「免疫チーム」を立ち上げ、各科で行 う免疫チェックポイント阻害薬治療を、腫瘍センター、 先端医療開発センターの専門医が請け負うシステムを 確立し、質の高い医療を提供しています。



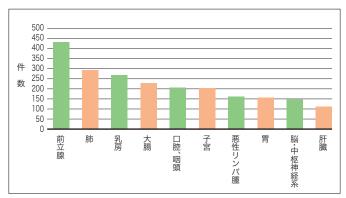
外来化学療法センタースタッフ

2)緩和ケア

緩和ケアを「末期がん患者が受ける治療」と思われている方が少なくありません。緩和ケアは身体の痛みに限らず、心の不安、仕事・経済的な悩みなども対象で、国が力を入れているがん対策の1つです。 腫瘍センターでは緩和ケアチームを組織し、入院患者のさまざまな要望に対応しています。また、がんと診断された時から緩和ケアを行えるよう医療従事者を対象とした「緩和ケア研修」を企画・運営しています。

3)がん登録

がん対策の第一歩は、がん診療の実態を把握する ことです。がん登録は法律に基づいて、患者さんのが んが見つかった経緯、がんのタイプ(病理診断)、治 療内容などの情報を国に提出しています。国は全国の データを集め、日本の各種がんの発生率、生存率など を算出、治療内容の評価を行ない、今後のがん対策に 生かしています。



2017年がん登録部位別件数(上位 10 部位)~群大病院~

4) 群馬県がん診療連携協議会

群馬県では、がん診療連携拠点病院、推進病院(県指定)、医師会、群馬県からなる「群馬県がん診療連携協議会」で県が進めるがん対策を遂行しており、腫瘍センターはその実務を担当しています。7月に当院が都道府県がん診療連携拠点病院に復帰しました。これまで以上に良い医療を提供できるようスタッフー同尽力して参ります。

テーマー対話で広げる安全文化ー

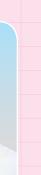


医療安全研修には多くの職員が参加しました



患者・家族の皆様にポスターをご覧いただきました

本年も6月17日から21日にかけて医療安全週間を実施いたしました。すべての職員が患者安全を第一に考え、より安全安心な医療の提供を、患者さんやご家族とともに進めていくために、今年度は「対話で広げる安全文化」をテーマとし、医療安全の取り組みに関するポスターおよび医療安全標語の掲示と当院職員向けの医療安全研修を実施しました。全てのポスターと標語は当院医療の質・安全管理部のホームページでご覧いただくことができます。(https://anzenkanri.showa.gunma-u.ac.jp/)



新任のご挨拶

消化管外科

教授 佐伯 浩司

2019年4月に着任した佐伯と申します。食道、胃、小腸、大腸など、消化管の外科を担当しています。鏡視下手術などの最先端の治療を推進し、心と身体にやさしい医療を心がけていきます。外来・入院を通して、各分野の指導医および専門医が責任を持って診察・治療をさせていただき、救急の患者さんにも24時間体制で対応します。地域のみなさまに寄り添った医療を提供できるようがんばります。よろしくお願いいたします。

病院探検!「診療情報管理部」

『医療の質はカルテの質から』



診療情報管理部は、診療情報管理士の資格を持った多職種のスタッフで構成され、現在20名が所属しています。診療情報管理士とは、院内の診療録等(いわゆる診療記録)を適切に管理し、診療記録から収集された診療情報を加工・フィードバックすることにより、医療の安全管理、質の向上及び適切な病院運営に寄与する専門的な職業です。当部でも診療情報の量的・質的点検、がん登録、医療統計などの業務を通じて、診療情報を分析・活用し、医療の質の向上に取り組んでいます。



様々な視点からカルテを守ります!

GUNDAI NEWSLETTER 第7号 2019年9月



患者さんの声







[時間外出入口] は、ドアが外部に向けて開 く構造のため、車いすの患者は、スムースに は入れない、改善が必要ではないか。





このたびは貴重なご意見をいただきありがとうございました。

重い開き扉であった時間外出入口を閉鎖し、時間外も自動ドアを利用できるように改善しました。時間外は、 内側の自動ドアを防犯のため施錠しておりますので、時間外案内窓口にて手続きをお願いします。

イベント実施報告 小中学生のための医学研究者・医師・看護師体験教室を開催しました

7月30日(火)に毎年恒例の体験教室を開催しました。今年で20回目になりました。多分野の講師から「命の大切さ」「食 事と栄養」「私が法医学者になった理由」「医療ロボットを自在に操る医師のお話」と題した講義や、DMAT(災害派遣医 療チーム)カーの見学や外来・病棟見学、コース別体験では、実際に研究者や医師、看護師が使っている道具の使い方を 教えてもらい、様々な体験をしました。この経験を機に、医療や医学に更に興味を持っていただきたいと願っています。



ストレッチャーや車イスの扱い方



内科診療室で医師体験



DMAT カーの前で!



研究者コース

新設募集

ドクターズアシスタント

(医師事務作業補助者)

医師の事務補助を担うことで「現在の地域医療」と「未 来の医療」に貢献します。経験は問いません。仕事を通 して「成長し続けたい」と願う仲間を募集しています。

★勤務形態:8時30分~15時30分

給:930円/1,100円(本院指定の試験合格者)

1日6時間勤務 週30時間

★お問い合わせ TEL: 027-220-7773



https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/pdf/20190704-DA-page.pdf



★イベント情報

重粒子線がん治療施設見学会

容: 「群馬県民の日記念事業」として、重粒子



線がん治療施設を一般開放 し見学会を開催します。 今回は、高エネルギー加 速器研究機構とのジョイン ト講演会も開催します。

間:令和元年10月5日(土)

見学会:10:00~16:00 講演会:10:00~/13:00~

●場 所:群馬大学昭和キャンパス

・施設見学: 重粒子線医学センター ・講演会:保健学科新棟2階

●費用:参加無料(団体を除き、事前申込不要) HP: https://heavy-ion.showa.gunma-u.ac.jp/

●その他: 1日センター長として

白衣姿のぐんまちゃんも登場!



群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」

第7号 2019年9月

編 集 ■ 群大病院だより編集委員会

発 行 ■ 群馬大学医学部附属病院

発行日 ■ 2019年9月26日

ホームページ https://hospital.med.gunma-u.ac.ip/

病院の理念

Doctor's Assistant

大学病院としての使命を全うし、 国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。 次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。 明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。 医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。